

授業科目名 ( 英文名 )	理科指導法 (Science Education III)	科目区分 対象学生	
単位数	2.00	開講年次・ 学期	3年次・後期
担当教員	平松 紳一	所属	非常勤講師
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>小学校・中学校・高等学校の理科教育の学習体系を把握し、学習指導要領の理科の目標及び内容を理解した上で、指導計画を作成して授業を構想する能力を育成することを目的とする。</p> <p>本講義の目標は、中学校及び高等学校の理科の教員として必要な教科指導力、授業実践力を身に付けることである。</p>		
講義内容・授業計画	<p>本講義では、学習指導要領に沿って中学校理科の各分野の内容を理解し、小・中・高等学校の理科の内容のつながりを考慮した上で指導計画を作成し、授業を構想する。授業は講義形式だけでなく適宜、グループ討議、発表、演習等を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 本講義の目標や概要を説明する。</li> <li>2. 学習指導要領改訂のポイントと理科の目標及び内容</li> <li>3. 中学校理科の目標及び内容 第1分野「エネルギー」を柱とする領域</li> <li>4. 指導計画の作成と学習評価(1)</li> <li>5. 中学校理科の目標及び内容 第1分野「粒子」を柱とする領域</li> <li>6. 指導計画の作成とICT機器の効果的な活用(1)</li> <li>7. 中学校理科の目標及び内容 第2分野「生命」を柱とする領域</li> <li>8. 指導計画の作成と学習評価(2)</li> <li>9. 中学校理科の目標及び内容 第2分野「地球」を柱とする領域</li> <li>10. 指導計画の作成とICT機器の効果的な活用(2)</li> <li>11. 小・中・高等学校理科における環境教育</li> <li>12. 指導計画の作成と内容の取扱い・学習指導案の作成</li> <li>13. 模擬授業</li> <li>14. 模擬授業</li> <li>15. 模擬授業・まとめと評価 (定期試験は行わない)</li> </ol>		
テキスト	<p>中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編(文部科学省) 小学校、高等学校学習指導要領解説は、必要に応じて資料として配布します。</p>		
参考文献	<p>中学校理科教科書:「未来へひろがるサイエンス1・2・3」(啓林館) 中学校理科教科書:「新しい科学1・2・3」(東京書籍)</p>		
成績評価の基準・方法	<p>成績評価の基準: 小・中・高等学校の理科の目標及び内容を理解した上で、中学校理科の授業計画案を作成し、指導に関する実践的な能力を身に付けた者については、講義目的・到達目標に記載する能力(知識・技能、思考力、判断力、表現力等)の到達度に基づき、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)による成績評価のうえ、単位を付与する。</p> <p>成績評価の方法: 出席レポート60%、模擬授業の評価30%、授業中の課題・討論やグループ活動の態度等10%を基準として総合的に評価する。</p>		
履修上の注意・履修要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校・高等学校理科教員を志望している者で、課題や模擬授業等に意欲的に取り組める人</li> <li>《新型コロナウイルス感染症に伴う特例措置に基づく遠隔授業》</li> <li>・ 当授業は、原則全ての授業を対面で実施する予定ですが、履修者人数によっては、新型コロナウイルス感染症対策として、履修者を複数の教室に分けて教室間をオンラインで繋ぐ方法や、対面授業と自宅でのオンライン授業を隔週実施する方法とすることがあり、自宅等でオンライン授業の受講を視聴できる通信環境(PC・タブレット等の端末やWi-Fi環境)が必要となる場合があります。最終的な授業方法は履修登録後に決定・連絡します。</li> </ul>		

実践的教育	高等学校で理科教員としての経験および県教育委員会、社会教育施設（自然史系博物館）で指導主事としての経験を有する教員が、学習指導案作成や授業の展開例について講義する。
備考	